

始良市企業版ふるさと納税マッチング支援業務仕様書

1 業務名

始良市企業版ふるさと納税マッチング支援業務

2 業務の目的

本市では、令和2年11月6日付け地域再生計画「始良市まち・ひと・しごと創生推進計画」に基づき、地方再生応援税制を活用した寄附の受け入れを行っている。

本業務は、「始良市まち・ひと・しごと創生推進計画」の事業を行うにあたり、受託者独自の取り組みを活かし、企業版ふるさと納税による寄附を行う見込みのある企業への働きかけを行い、寄附の獲得を目指すものである。

3 業務内容

本業務の受託者は、次のいずれか、または複数の手法の組み合わせにより、企業版ふるさと納税による寄附獲得を目指す。ただし、(1)の業務は必須とする。

- (1) 企業版ふるさと納税による寄附を行う可能性のある企業（以下、「寄附見込企業」という。）への働きかけに対する当市のプロジェクト（別表）の紹介及び紹介方法の提案。
- (2) 寄附見込企業の新規開拓及び当市への寄附見込企業の紹介
- (3) 前各号のほか、当市の寄附獲得に資する支援。

4 業務上の注意事項

- (1) 業務内容の詳細は、企画提案の内容を基本とし、始良市と受託者が協議して決定すること。
- (2) 本仕様書に疑義が生じた場合は、あるいは定めのない事項については、始良市と受託者が協議して決定すること。
- (3) 受託者は、本事業の一部又は全部の実施を第三者に委託し、又は請け負わせることをしてはならない。ただし、業務を効率的に行う上で必要と認める時は、市の承認を得た上でその一部を委託することができる。
- (4) 本事業を通じた寄附は、別途示す「企業版ふるさと納税（地方創生応援税制）寄附申出書」の寄附企業から本市への提出を原則とする。また、本業務を通じた寄附の証明として「「受託者名」による紹介が寄附の契機になったか」という主旨の設問を設けることとする。

5 委託期間

契約締結の日から令和5年3月31日まで

6 業務報告

受託者は、業務の進捗に応じて定期的に本市に報告を行うこととし、報告内容及び報告頻度等は、企画提案内容を踏まえた上で受託者との協議により定めるものとする。

別表 令和4年度 企業版ふるさと納税活用プロジェクト

事業名	事業概要	寄附目標額
子育て支援拠点施設整備事業	始良市は鹿児島県の中央に位置し、その立地環境から、入流により子育て世帯を中心とした人口が増加している一方、核家族化の影響などにより身近な人から子育てを学ぶ機会は減少し、地域内でのつながりも希薄化するなど、子育て世帯が抱える悩みや問題は増加しています。子どもたちがのびのびと過ごすことができる全天候型施設整備を行い、子育てに携わる誰もが安心して子育てを行えるよう、子育て支援のまちづくりを象徴する拠点整備を行います。(令和6年4月オープン予定)	35,000 千円
あいら未来特使団事業	始良市では未来を担う青少年を育成するため、学校や学年の枠を越えた「あいら未来特使団」を結成しています。毎年、「チャレンジ！日本一」と銘打ち、異年齢集団による「日本一の山・富士登山の体験を中心とした特色ある活動プログラムにより、チャレンジする心・仲間と協力する心・思いやりの心を培う活動を行います。(※新型コロナウイルス感染症の影響により令和4年度は屋久島登山を行います。)	1,400 千円
子ども家庭総合支援拠点運営事業	近年、子どもを取り巻く環境は変化しており、核家族化やひとり親世帯の増加、児童虐待相談件数の急増など、子育て世帯が抱える問題は多岐にわたり、多様な機関によるきめ細やかな対応が求められています。そのため、すべての子どもとその家庭及び妊産婦等を対象に、様々な相談に対する必要な助言・指導等を行い、寄り添った支援を行っています。その相談及び支援にあたっては、専門の相談員を配置するとともに関係機関と連携しながら、子どもとその家庭の自立に至るまでの包括的・継続的な支援に努めます。 また、子どもに関する相談をワンストップで受け止めることで、最も身近な相談場所を明確にし、妊娠期から継続した切れ目のない支援を行います。	8,000 千円

事業名	事業概要	寄附目標額
公共交通対策事業	始良市では、バス事業者が自主的に運行しない地域、いわゆる交通空白地域を解消するために、利用者のニーズに合わせて運行する「コミュニティバス」を走らせています。また、中山間地域を中心に、バスに代わる交通手段として「デマンドタクシー」を運行し、予約すると玄関先まで送り迎えをしてくれるサービスを実施しています。この事業をとおして、地域住民の安全確認も行うことができ、利用者の積極的な外出は、地域の孤立を防ぎ、利用者の健康にもつながっています。	48,000 千円
帖佐駅バリアフリー化事業	帖佐駅周辺は、近年、利便性の良さから住宅地として人気のある地域として発展し、帖佐駅は1日約2700人が主に通勤通学で利用しています。帖佐駅の下り線プラットフォームの利用には、陸橋を渡る必要があり、全ての利用者に優しいバリアフリー化への要望が期待されています。これまで、近くの駅を利用していた方にとって利便性の良い駅に生まれ変わります。（※九州旅客鉄道株式会社と共同で取り組む事業です）	7,100 千円
新規就農者支援事業、農業次世代人材投資事業	始良市は県央の利便性の良さから人口増加が続いている一方、近年、農業従事者は大きく減少し、後継者不足や遊休農地増加が課題となっています。そのため、新規就農者や後継者を支援するために専門のコーディネーターによる営農指導を行い、経営状況の把握を行います。また、就農者の定着と安定した経営を支援するための奨励制度により若年層の参入による地域活性化を行っています。耕作放棄地の解消が、鳥獣による里山被害防止や自然環境保全につながっています。	7,600 千円

事業名	事業概要	寄附目標額
商店街活性化事業	始良市への大型商業施設の進出に伴い交流人口は増加し市内中心部は活性化されている。一方、古くからある商店街においては後継者不足や新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、空き店舗が課題となっているため、この空き店舗を活用し新規開業を目指す事業者に対して、家賃補助を行うことで開業を支援するとともに、商工会と連携した経営支援に取り組めます。	4,100 千円
蒲生のクス保護増殖事業	「蒲生のクス」は昭和 27 年に国特別天然記念物に指定され、始良市のシンボルツリーとして、多くの方が訪れるパワースポットの一つとなっています。推定樹齢約 1,500 年の月日により、近年樹勢の衰えが見られたことから、令和 5 年度までクスの木の周りの土壌改良を行い、新たに踏圧防止板を設置して見物者が身近に見学できるようにするとともに、「蒲生のクス」にとっても優しい環境を整備します。	4,200 千円
重富地区おもてなし整備事業	重富駅は始良市にとって JR 日豊本線の玄関口となる駅で、1 日に約 500 人が利用しています。平成 27 年から無人駅となりましたが、市が NPO 法人に委託し、始良市玄関口のおもてなしに努めています。重富駅の近くには、松林や桜島の景観が美しい重富海岸や、江戸時代から残る薩摩藩の主要街道「白銀坂」があり、近年は、市内の景勝地や史跡を巡るウォーキングの起点となり、観光客を取り込む活動も活発に行われています。この重富駅の公衆トイレを整備し、観光客の受入れ環境向上に努めます。	12,000 千円
寄附目標額合計		122,400 千円

※企業版ふるさと納税活用プロジェクトは、始良市まち・ひと・しごと創生推進計画で登録し令和 4 年度に始良市が寄附を求める主な事業の一部になります。